

守山企業景況調査報告書

(第56回)

令和5年7月～令和5年9月期 実績

令和5年10月～令和5年12月期 見通し

守山企業景況調査について

(令和5年7月～令和5年9月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 68 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	18	10	55.6%
製造業	13	9	69.2%
建設業	12	9	75.0%
サービス業	19	12	63.2%
卸売業	5	4	80.0%
合計	67	44	65.7%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和5年7月～令和5年9月、見通しを令和5年10月～令和5年12月とし、調査時点は令和5年10月31日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDIffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は3カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算（経常利益）の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和5年7月～令和5年9月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和5年7月～9月期の調査結果では、売上高、業況、採算の3指標の数値が上昇した。

<業況>

業況DIは2.2で前回調査の▲17.6から19.8ポイント上昇した。業種別では、小売業▲36.4（前回調査比▲15.0）、製造業▲11.1（前回調査比+11.1）、建設業22.2（前回調査比+44.4）、サービス業16.7（前回調査比+30.0）、卸売業50.0（前回調査比+50.0）と小売業以外の4業種が上昇し、小売業は低下した。10月～12月期見通しは全体で4.4である。

<売上高>

売上高DIは2.3で前回調査の▲7.7から10ポイント上昇した。業種別では、小売業▲10.0（前回調査比▲10.0）、製造業0.0（前回調査比+22.2）、建設業0.0（前回調査比+33.3）、サービス業▲8.3（前回調査比▲8.3）、卸売業75.0（前回調査比+50.0）であり、製造業、建設業、卸売業で上昇し、小売業、サービス業で低下した。

10月～12月期見通しは全体で9.1である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは▲8.9で前回調査の▲25.0から16.1ポイント上昇した。業種別では、小売業▲36.4（前回調査比▲0.7）、製造業▲22.2（前回調査比±0.0）、建設業11.1（前回調査比+44.4）、サービス業▲8.3（前回調査比+16.7）、卸売業50.0（前回調査比+25.0）で建設業、サービス業、卸売業で上昇し小売業は低下した。また、製造業は横ばいであった。

10月～12月期見通しは全体で▲2.2である。

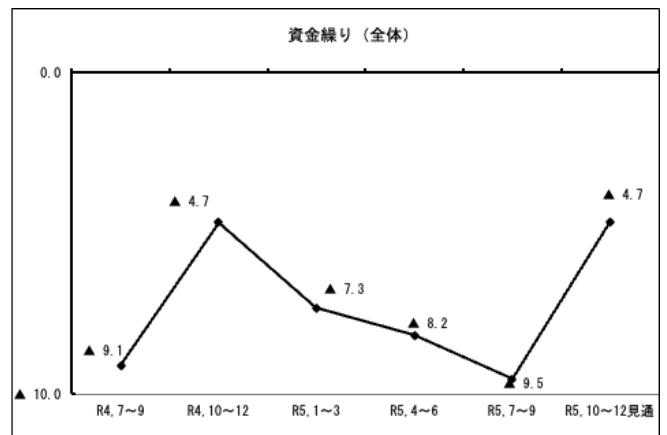
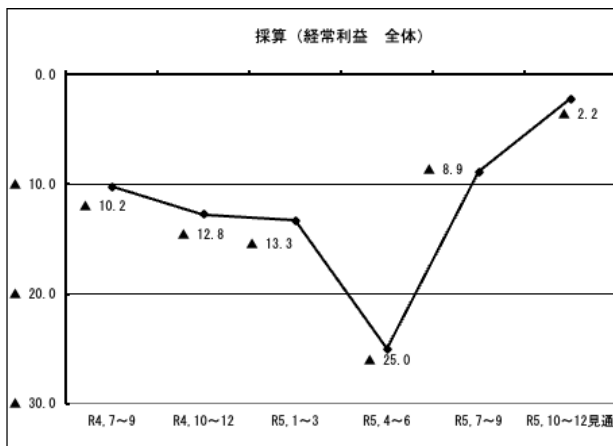
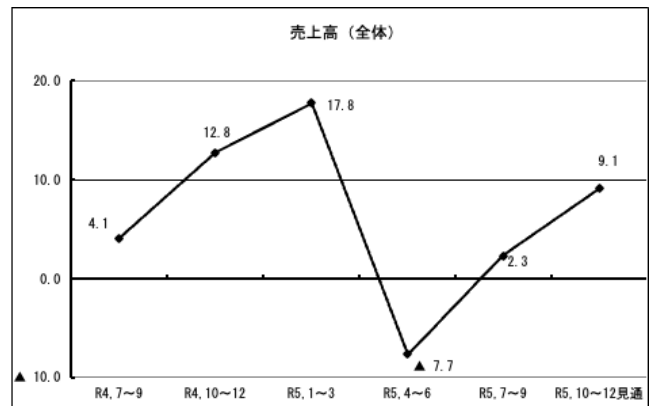
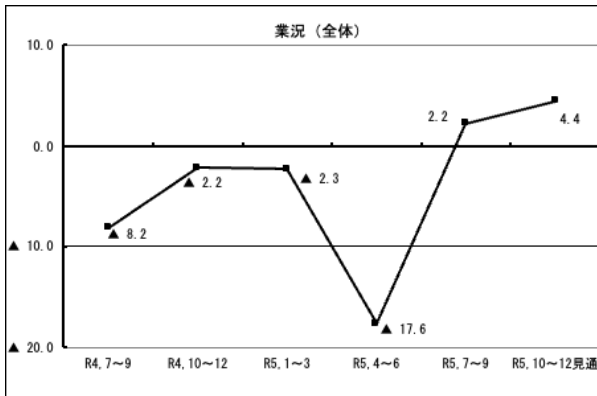
<資金繰り>

資金繰りDIは▲9.5で前回調査の▲8.2から1.3ポイント低下した。業種別では小売業▲36.4（前回調査比▲29.3）、製造業0.0（前回調査比+12.5）、建設業11.1（前回調査比+44.4）、サービス業▲10.0（前回調査比▲10.0）、卸売業0.0（前回調査比▲25.0）で製造業、建設業は上昇し、その他の3業種は低下した。

10月～12月期見通しは全体で▲4.7である。

<物価高騰の影響などの意見>

- ・ 光熱費の高騰、最低賃金の増加、資材の値上げ等経費の削減に努力が必要。新しい需要開拓を模索中。
- ・ これ以上の円安を止めて円高に転換できる政策を希望する。



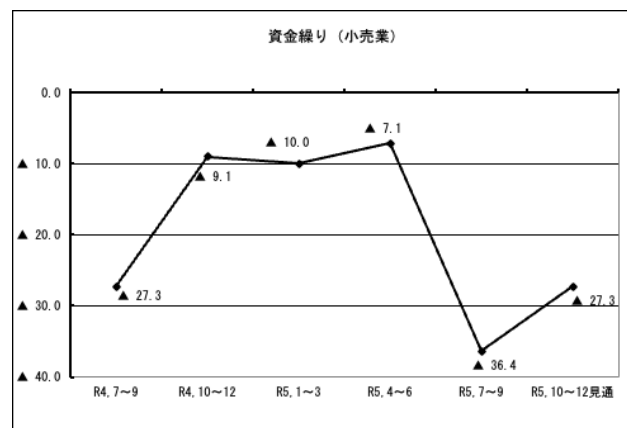
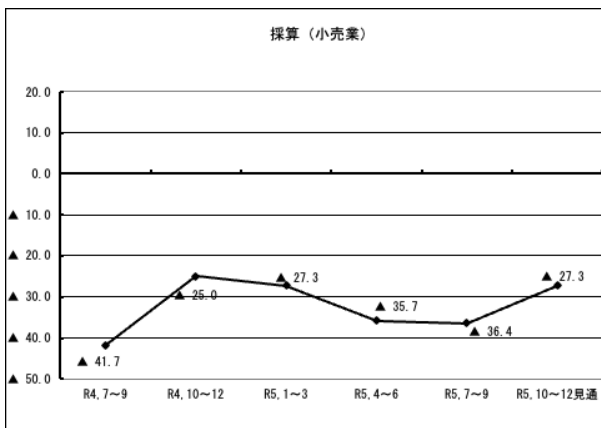
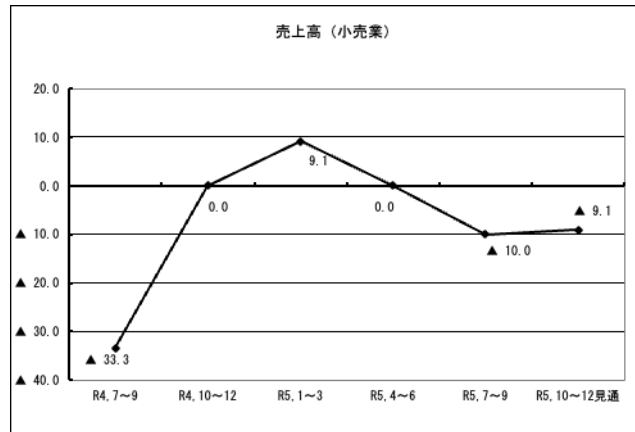
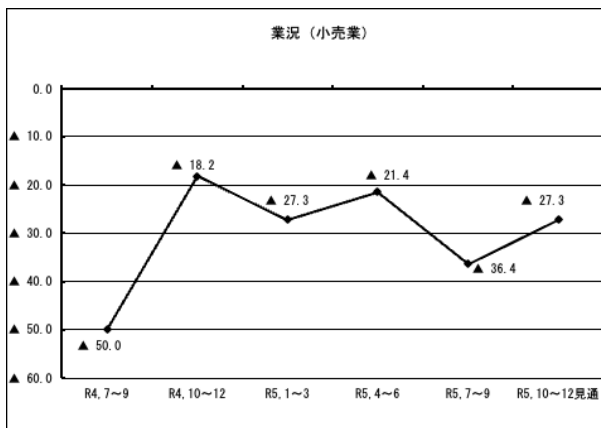
小売業

小売業の業況DIは▲36.4で前回調査に比べて15ポイント低下した。3四半期連続でマイナス20ポイント台で推移していたが、今回調査ではそれを割込むことになった。令和4年7月～9月期から回復基調であったが少し後退している。ただ、10月～12月期見通しが▲27.3と前回調査並に戻しているのでものこのまま悪化して行くとは考えられていないようである。

売上高DIは▲10.0で前回調査に比べて10.0ポイントの低下であった。令和5年1月～3月期の9.1をピークに徐々に数値が下がってきている。とは言え、それほど大きな下りではなく10月～12月期予想でも▲9.1と微増であるのでそれほど悲観はされていない。

採算DIは▲36.4で前回調査より0.7ポイント低下した。令和5年1月～3月期から3四半期連続での低下であり、採算は少しずつ悪化しているようである。しかし、10月～12月期は▲27.3と反転している。

資金繰りDIは▲36.4で前回調査より29.3ポイント低下した。過去1年では最低の数値であり、今回は30ポイント弱の大幅の低下であるので、小売業の資金繰りが悪化したというようである。10月～12月期見通しは▲27.3なので少し数値が上昇するものの悪い数値であることには変わりない。



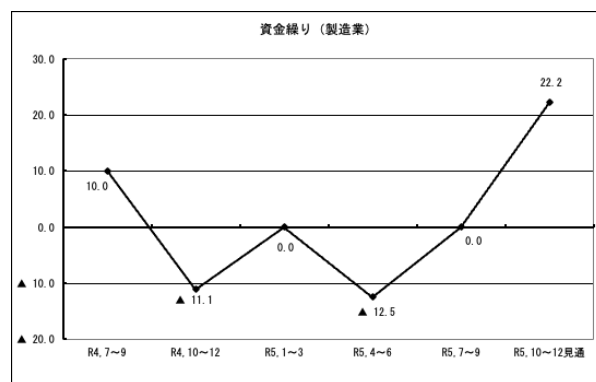
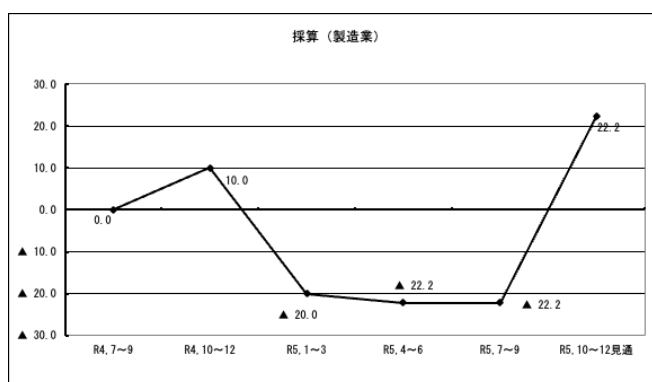
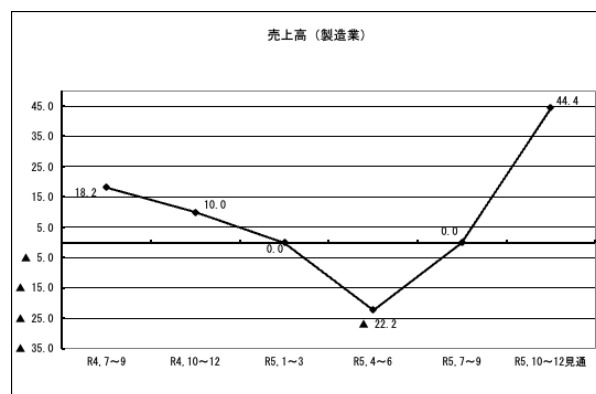
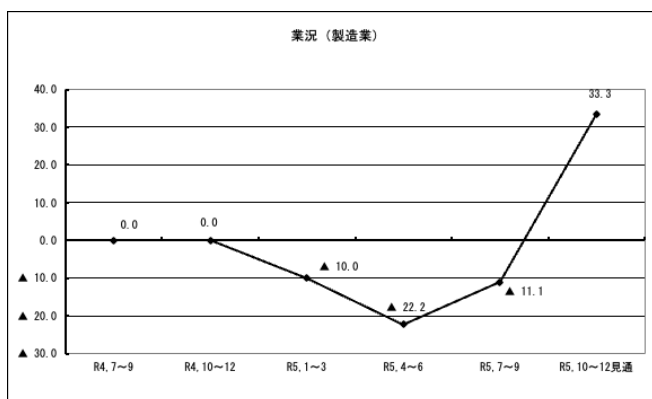
製造業

製造業の業況DIは▲11.1と前回調査の▲22.2から11.1ポイント上昇した。前回調査まで2四半期連続で低下していたが、今回は上昇に転じた。過去2年を見ると令和4年4月～6月期の20.0、令和5年4月～6月期の▲22.2を除いて他はおよそ0.0から▲10.0近辺で推移しているその水準に戻したと見ることができる。10月～12月期見通しは33.3と大幅な上昇を見込んでいる。

売上高DIは0.0で前回調査と較べて22.2ポイント上昇した。売上高も数値が上昇し、4四半期連続の低下から上昇に転じた。10月～12月期見通しは44.4とかなりの上昇が見込まれている。

採算DIは▲22.2で前回調査と同じであった。3四半期連続での▲20近辺で採算は、回復しなかったことがうかがえる。しかし、10月～12月期見通しは22.2と上昇しており、採算も次回調査時点では回復している見込みである。

資金繰りDIは0.0で前回調査に比べて12.5ポイント上昇した。令和4年から前回調査までは上下運動のような結果で今回はその続きで上昇の順になっており、調査結果もそのようになった。10月～12月期見通しは22.2と資金繰りも数値が上昇しており資金繰りの面でも回復して行く見込みである。



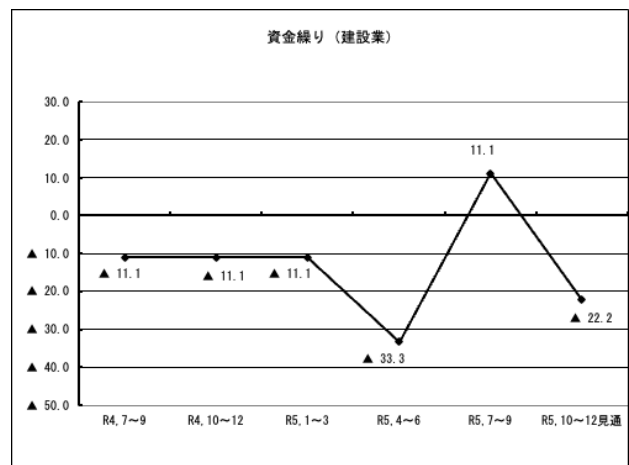
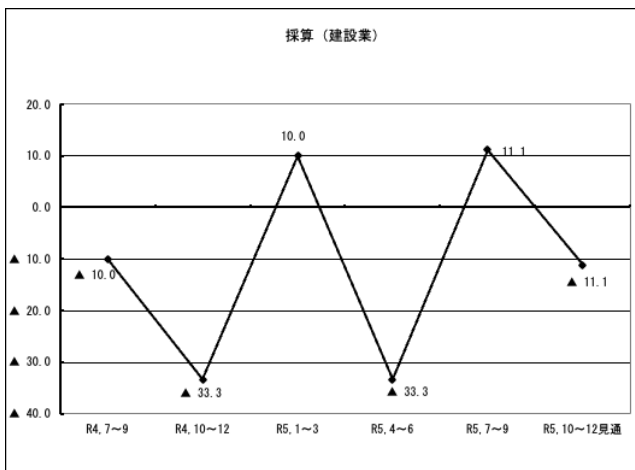
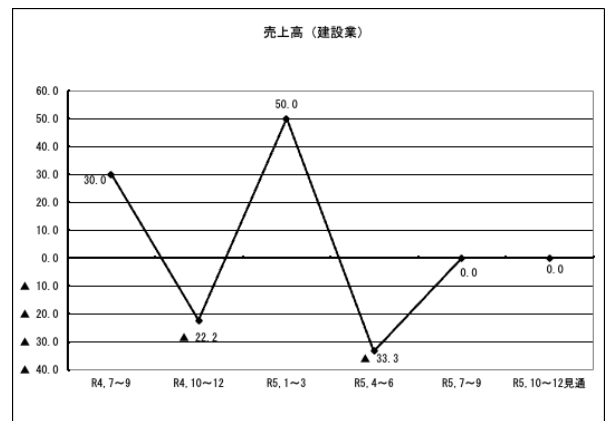
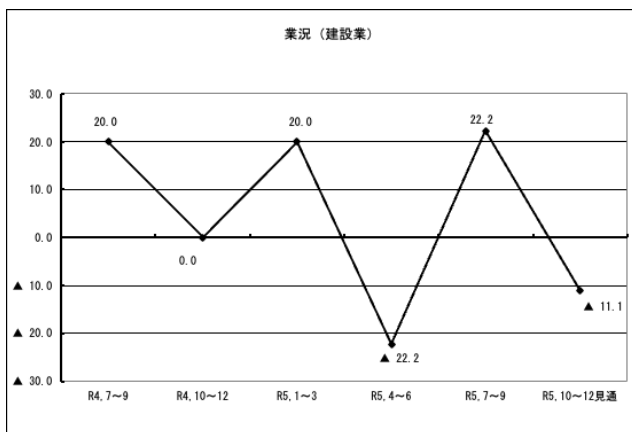
建設業

建設業の業況DIは22.2であり前回調査から44.4ポイント上昇した。過去1年を見ると、上昇と低下を繰り返し、上昇の期では20ポイント近辺まで上昇するパターンになっている。10月～12月期見通しは▲11.1と低下の順番の通りになっている。

売上高DIは0.0で前回調査より33.3ポイント上昇した。前回調査では大きく数値が低下したが今回調査では一転してプラスマイナス0.0まで数値を戻した。売上高も過去1年では上昇と低下を繰り返すパターンになっており、今回は上昇の順番だった。しかし、10月～12月期見通しは0.0と横ばいになっているので、このパターンから離れることも考えられる。

採算DIは11.1で前回調査より44.4ポイント上昇した。前回調査で低下した分だけ今回調査で上昇している。採算も過去1年では低下と上昇の繰り返しで今回は上昇の局面であったと言える。10月～12月期見通しは▲11.1でやはり低下しており、採算はこのパターンが続きようである。

資金繰りDIは11.1で前回調査に比べて44.4ポイント上昇した。過去1年では▲11.1から▲33.3となり、今回は11.1と一気に回復を見せた。しかし、10月～12月期見通しは▲22.2と再び数値が低下しており不安定な資金繰りの状況である。



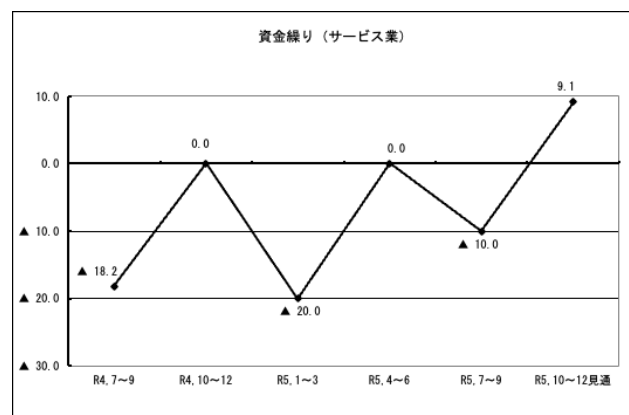
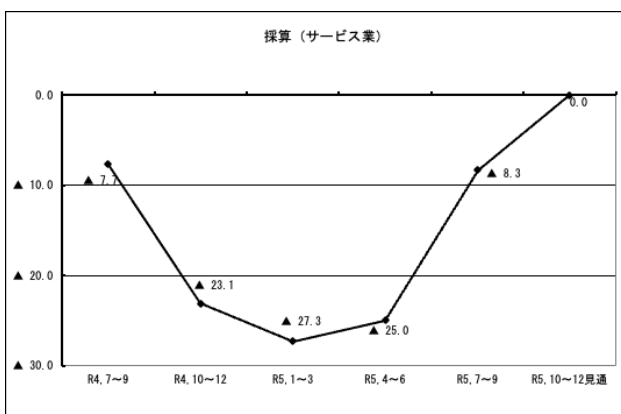
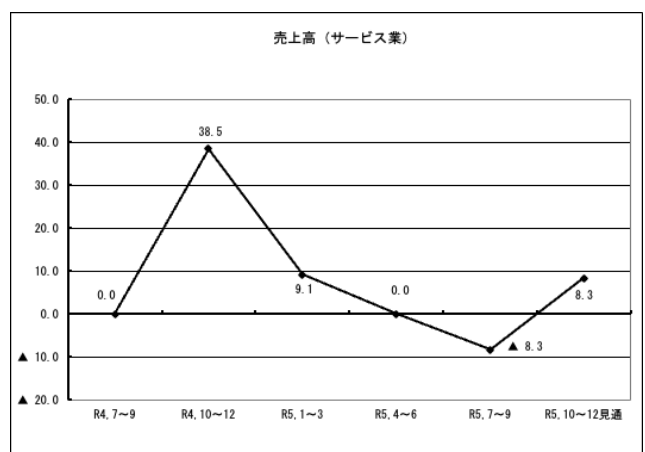
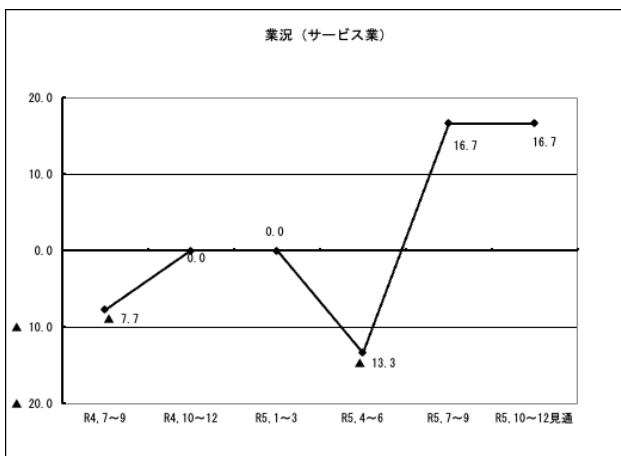
サービス業

サービス業の業況DIは16.7で前回調査に比べて30.0ポイント上昇した。前回調査から1年は最高で0.0までしか上らなかった業況の数値が今回調査で16.7まで上昇した。サービス業の業種がここまで高く出るのは過去3年を遡ってもなく、今回調査時点では、かなりよかったと言える。10月～12月期見通しも16.7でこの調子が続くと思われる。

売上高DIは▲8.3で前回調査より8.3ポイント低下した。令和4年10月～12月期の38.5を山に3四半期連続での低下である。令和5年に入って売上高は低下を続けていることになる。しかし、10月～12月期見通しは8.3と回復を予想しており、見通しは明るいようである。

採算DIは▲8.3で前回調査に比べて16.7ポイント上昇した。令和5年1月～3月期を底に徐々に回復してきているようであり、10月～12月期見通しは0.0となっているので、採算もよくなりつつあると見られている。

資金繰りDIは▲10.0で前回調査より10ポイント低下した。過去1年では低下と上昇を繰り返すパターンであったので今回もそれに従い低下した。しかし、低下の幅は小さくなっているので資金繰りが改善に向っているようである。10月～12月期見通しも9.1とプラスの数値になっておりそれを示している。



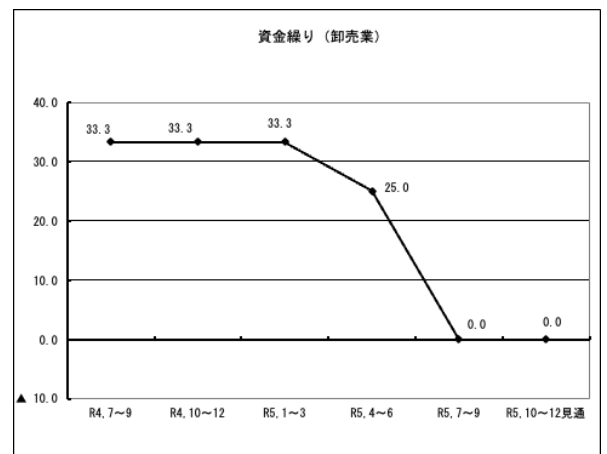
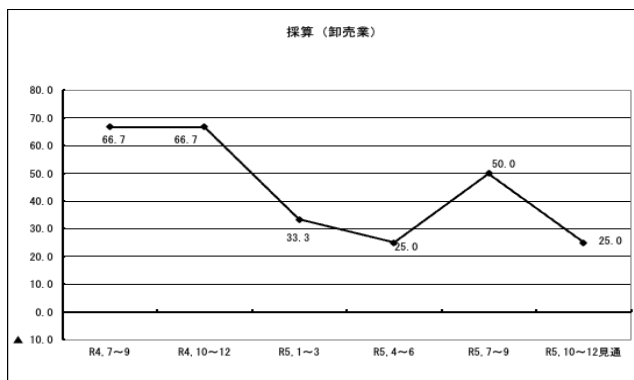
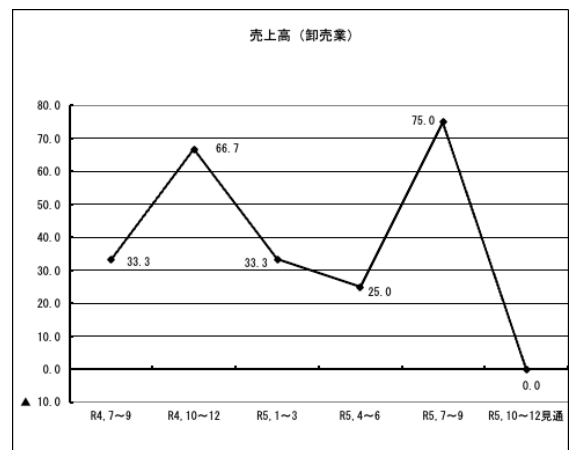
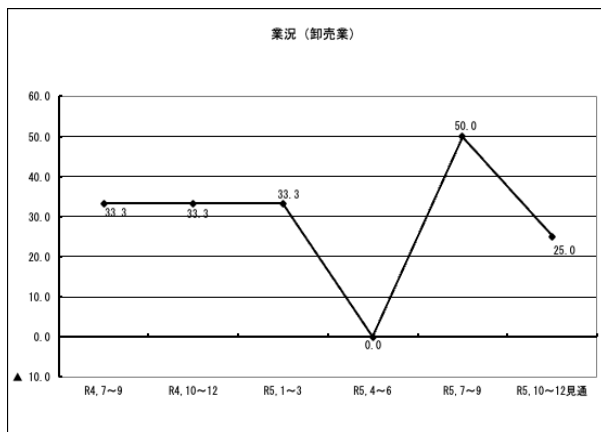
卸売業

卸売業の業況DIは50.0で前回調査と比べて50ポイント上昇した。前回調査では0.0となったが、今回調査では上昇になった。過去1年を見ても前回調査の0.0が特異な数値であると見ることができる。10月～12月期見通しは25.0と25ポイント下げているが、それでも十分にプラスの数値が出ている。

売上高DIは75.0で前回調査より50ポイント上昇した。今回調査の75.0と言う数値は過去2年を遡ってもない高い値であり、好調さが現れている。10月～12月期見通しは一転して0.0なので好調の持続が今後の課題かもしれない。

採算DIは50.0で前回調査より25.0ポイント上昇した。令和4年10月～12月期の66.7からなだらかに採算DIは下っていたが、今回は上昇しており、採算面でも好調な四半期であったことがうかがえる。10月～12月期見通しは25.0とプラスを維持するものの数値は低下しており注意が必要である。

DI資金繰りDIは0.0で前回調査より25ポイント低下した。資金繰りは令和4年4月～6月期に0.0があり、それ以来の数値である。他の3指標とは少し違う動きを見せる資金繰りのDIであるが、10月～12月期見通しも0.0であることを考えると、10月～12月期は全体として低調な予想になっている。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全 体	2.2	4.4	2.3	9.1	▲ 8.9	▲ 2.2
小売業	▲ 36.4	▲ 27.3	▲ 10.0	▲ 9.1	▲ 36.4	▲ 27.3
製造業	▲ 11.1	33.3	0.0	44.4	▲ 22.2	22.2
建設業	22.2	▲ 11.1	0.0	0.0	11.1	▲ 11.1
サービス業	16.7	16.7	▲ 8.3	8.3	▲ 8.3	0.0
卸売業	50.0	25.0	75.0	0.0	50.0	25.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全 体	9.1	15.6	▲ 21.4	▲ 7.1	▲ 9.1	▲ 2.3
小売業	▲ 18.2	▲ 18.2	▲ 44.4	▲ 44.4	▲ 30.0	▲ 33.3
製造業	0.0	44.4	▲ 33.3	▲ 11.1	0.0	22.2
建設業	37.5	22.2	▲ 12.5	▲ 25.0	0.0	▲ 11.1
サービス業	0.0	0.0	▲ 8.3	8.3	▲ 16.7	0.0
卸売業	75.0	75.0	0.0	25.0	25.0	25.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全 体	▲ 9.5	▲ 4.7	0.0	▲ 2.9	3.0	0.0
小売業	▲ 36.4	▲ 27.3	▲ 14.3	▲ 14.3	▲ 14.3	▲ 14.3
製造業	0.0	22.2	12.5	12.5	25.0	25.0
建設業	11.1	▲ 22.2	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	▲ 10.0	9.1	0.0	▲ 12.5	0.0	▲ 14.3
卸売業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3

過去からの動向

